

令和2年12月25日  
農推第1189-9号

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

ハウスに雪が積もった場合は、倒壊の恐れがありますので、決してハウス内に入らないでください。

## 特に発生に注意

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・次年度以降の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆いましょう。
- ・伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

## キャベツ

## 菌核病

- ・温暖、多雨により発生が助長されます。
- ・菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- ・発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布しましょう。

## たまねぎ

## べと病

- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布しましょう。



キャベツ菌核病被害

たまねぎべと病\*  
(苗における発病状況)

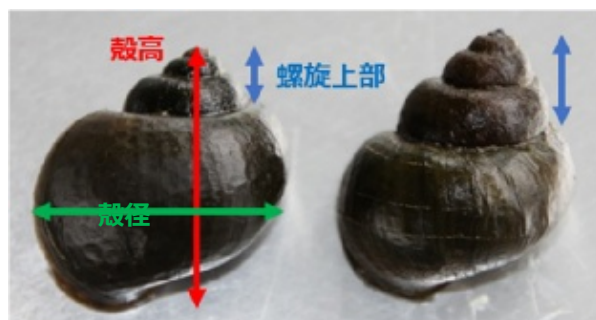
次回の情報は1月下旬にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

## 水稲

## ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

ジャンボタニシ  
(スクミリンゴガイ)

ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ



用水路(水口)の卵塊

注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

## 特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

## 防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トンゴなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

## ホームページに掲載しているカラー技術資料

「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 果樹

## バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

## クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和2年5月13日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj\\_voi\\_youhou/R0205kubi\\_aka.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj_voi_youhou/R0205kubi_aka.pdf)

- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aronia\\_bungii/Aronia\\_bungii\(HB104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aronia_bungii/Aronia_bungii(HB104).pdf)



## 野菜

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

## すすかび病



すすかび病被害葉※  
表(左) 裏(右)※

## 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

## きゅうり(施設抑制栽培)

## ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

## 特徴

- ◆発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆露地では越冬できないが、施設では下草などで越冬できる。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆施設内の残渣を処分し、施設内外の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後は、除草後に施設を2週間以上閉めきり、本虫を死滅させる。

## あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## 菌核病



キャベツでの発病

## 特徴

- ◆温暖、多雨により発生が助長される。

## 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作に防除効果がある。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## 野菜

### たまねぎ

#### べと病



べと病（苗における発病状況）＊

#### 特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越冬罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

#### 防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。